
[成果情報名] カキ「早秋」の摘蕾ならびにシートマルチによる外観品質の向上

[要約] カキ「早秋」は、1 結果枝 2 蕾となるように摘蕾することで、慣行の 1 結果枝 1 蕾よりも早期落果後の結果量が多くなり、奇形果率は低下する。収穫 1 ヶ月前に樹冠下にシートマルチ処理することで、汚損果の発生を抑制する効果がみられる。

[キーワード] カキ、早秋、摘蕾、果形、シートマルチ、汚損果

[担当部署] 果樹部・果樹育種チーム

[連絡先] 092-922-4946

[対象作目] 果樹

[専門項目] 栽培

[成果分類] 技術改良

[背景・ねらい]

カキ「早秋」は、奇形果が多く早期落果も多いため、早期落果終了後に結果量が不足すると摘果できる果実が減少し、奇形果率が高くなる。そこで、摘蕾程度の違いが結果量と奇形果率ならびに果実品質に及ぼす影響を明らかにする。また、シートマルチ処理による汚損果の発生軽減効果を明らかにする（要望機関名：朝倉普（H13））

[成果の内容・特徴]

- 1．1 結果枝 2 蕾となるように摘蕾すると、慣行の 1 結果枝 1 蕾と比べて結果率に違いはみられず、早期落果終了後の結果量は多くなる（表 1）。
- 2．1 結果枝 2 蕾となるように摘蕾すると、慣行と比べて奇形果率が低くなる。その他の果実品質には摘蕾程度の違いによる差はみられない（表 1）。
- 3．収穫 1 ヶ月前に白色の反射シートを樹冠下に被覆すると、汚損果の発生が多い年では抑制する効果がみられる（表 2）。

[成果の活用面・留意点]

- 1．カキ「早秋」における果実外観向上のための参考資料として活用できる。
- 2．シートマルチは、被覆率 50% 程度となるように樹冠下に処理する。
- 3．条紋や汚損の発生を軽減するために、土壌水分の変動を軽減するとともに、通風や日照条件など園内環境を良好にする。
- 4．シートマルチ処理は、果皮色向上にも効果がある。

[具体的データ]

表1 「早秋」の摘蕾程度の違いと果実品質（平成14～18年）

処理区	摘蕾程度	早期落果後		果実品質			
		結果率	早期落果後の結果量	奇形果率	果重	果皮色	糖度
		%	果/母枝	%	g		brix
2倍量	1結果枝2蕾	39.4	3.2	19.2	239	5.9	15.4
慣行	1結果枝1蕾	46.9	2.1	29.1	249	6.0	15.3
有意性		NS	*	*	NS	NS	NS

注) 1. 5月上旬に摘蕾を行い、7月中旬に結果率、結果量を調査した後、いずれも結果母枝当たり

2果程度となるよう結果量を調整した

2. 9月下旬～10月上旬に収穫し、奇形果率ならびに果実品質を調査した

3. 果皮色はカキ用カラーチャート（農水省果樹試験場作成）による赤道部の測定値

4. *はt-検定により5%水準で有意差あり、NSは有意差がないことを示す

表2 「早秋」のシートマルチ処理と汚損果率

処理区	汚損果率					平均
	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	
	%	%	%	%	%	%
シートマルチ	2.6	2.9	15.9	0.4	2.0	4.8
慣行	26.3	3.0	55.8	8.6	1.8	19.1
有意性	*	NS	*	*	NS	

注) 1. 収穫約1ヶ月前に樹冠下に白色反射シート（タイベック）を被覆した

2. 9月下旬～10月上旬にかけて、赤道部の果皮色がカラーチャート値で5以上となったものを収穫した

3. 汚損発生率は「無」～「多」の5段階で評価し、「中」以上のものの割合で示した

4. *はt-検定により5%水準で有意差あり、NSは有意差がないことを示す

[その他]

研究課題名：カキ新品種「早秋」の高品質安定生産技術の確立

予算区分：経常

研究期間：平成18年度（平成14～18年）

研究担当者：千々和浩幸、白石美樹夫、藤島宏之、平川信之、矢羽田二郎